

特集1 新チャレンジ大阪 1

第1回 大阪産業技術研究所との産官技術交流会

バイオ技術を活用した環境と人にやさしいものづくり
— 食品・化粧品等の開発に役立つ新素材 —

〈開会挨拶〉

大阪商工会議所 産業・技術振興委員会
委員長 有光 幸紀 氏



大阪商工会議所 産業・技術振興委員会 委員長の有光でございます。今日は、ご多用のところ、「大阪産業技術研究所との産官技術交流会」にご参加いただき、誠にありがとうございます。また、本交流会の開催にあたり、大阪府・大阪市のご協力ならびに多くの関係機関からご後援を頂くなど、格別のお力添えを賜りましたことを厚く御礼申し上げます。

さて、本交流会は、大阪産業技術研究所の最近の研究成果を紹介し、企業の研究開発、新製品開発に役立てて頂くため開催しています。大阪産業技術研究所は、平成29年4月、大阪市立工業研究所と大阪府立産業技術総合研究所の統合により誕生いたしました。本交流会も「新チャレンジ大阪」と改称し、統合による相乗効果を発揮していくことを目指しています。新組織体制のもとでは、両者の研究開発力の結集により、新産業創出と技術支援の更なる強化を目指されており、大変心強く感じているところであります。

大阪商工会議所においても、新産業創出、中小企業の技術課題解決を支援するため、今年度から始動した中期計画「たんと繁盛大阪アクション」において、オープンイノベーションの更なる推進に取り組んでいます。昨今、グローバル化やICT技術の進展により我が国を取り巻く変化のスピードは加速しております。しかしながら、経営資源に限りのある中小企業では、イノベーション創出に必要な技術の

全てを自社で賄うことができないため、公設試験研究機関が生み出した専門知識や技術を、自社の経営資源と組み合わせて迅速に研究開発や技術開発に取り組むことが大切になっています。こうした中、大阪産業技術研究所では、金属、電気・電子に強みを持つ「和泉センター」と、化学、高分子、バイオ・食品、ナノ材料に強みを持つ「森之宮センター」の2拠点体制を敷き、技術相談・受託研究・依頼試験などの従来からの支援活動に加え、技術分野を横断した統合的な研究開発にも取り組まれ、技術支援を強化されています。

本日の交流会は、特に、バイオ技術に焦点を当てております。従来の化学工業プロセスでは困難であった物質の合成・分解が、微生物や酵素を利用したバイオプロセスによって容易に実現され、かつ環境負荷低減も見込まれています。この後、3名の研究者から、生物の様々な生命現象を活用した化合物開発についてご紹介いたしますので、皆様方におかれましては、新事業創出、新製品開発などにお役立ていただければ幸いです。また、講演終了後には、研究員の方々との交流会も開催致しますので是非ともご参加下さい。

最後に、本日のプログラムを通じて、産官の技術交流がさらに深化、拡大することを願ひまして、私からのご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。